

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 熊本県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | | | | |
|-----|---------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 熊本大学教育学部附属小学校 | | | | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 0 | 18 | 22 |
| 児童数 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | 37 | 0 | 117 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|--|
| <p>学びが好きになる授業の創造 ～ IT の活用を図りながら～</p> |
|--|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|---|
| <p>・全学年 全教科等 本校は、それぞれの教科を専門に研究する教官で構成されているため。 学校として、各教科に関する研究実績があるため。</p> |
|---|

(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | <p>テーマ 学びが好きになる授業の創造 ～ IT の活用を図りながら～ 研究の見通し 学習意欲向上のために IT を活用することによって、IT の可能性を探るとともに、IT の教育的機能を明らかにする。 研究の内容・方法</p> <p>・研究内容 人間が本来もっている学習意欲を喚起し、それを充足していけば、学習への満足感を味わうことができる。このような状態を創り出し、維持していけば、子どもたちが学びを好きになっていくと考える。 人間を学習に向かわせるためには、「知的好奇心」「向上心」の喚起が重要になる。知的好奇心・向上心を喚起し、それを充足する学習を通すことで、子どもたちは満足感を得て、学びが好きになっていく。 しかし、内発的な学習意欲を支える「有能感・自己決定感・他者受容感」という三つの感覚が育っていないと、知的好奇心も向上心も喚起・充足されない。この三つの感覚を高めていくような学習を組み立てていく必要がある。 IT を活用し、「知的好奇心」「向上心」を喚起・充足させ、「有能感・自己決定感・他者受容感」を高める授業のあり方を研究内容とする。</p> <p>・研究方法 知的好奇心・向上心を喚起・充足させていくために、次のような教師の働きかけを授業に取り入れて検証を行っていく。</p> <p>(1) 知的好奇心・向上心を喚起させる授業 新奇性のある素材を提示する 子どものもつ信念や先入観を利用する 足がかりになる知識を与える 応答的な環境を準備する 明確な目標を提示する 達成可能な見通しをもたせる 豊富な学習環境を準備する 進歩の跡を明確にする</p> <p>(2) 知的好奇心・向上心を充足させる授業 理解を促す 発見する喜びを体験させる 成功経験をもたせる 学習者間の交流を促す 成長を自覚させる</p> <p>各教科において、焦点化する学習意欲を設定する(例：国語科「表現意欲」、</p> |
|--------|--|

体育科「挑戦意欲」等)。授業を評価するための「授業評価指標」を取り入れ、教師の授業力の向上を図る。

平成15年度

テーマ
 学びが好きになる授業の創造
 ~ IT の活用を図りながら ~
 研究の見通し
 前年度の研究によって明らかになった IT の教育的機能を元に「学習意欲向上のための IT 活用の視点」を設定し検証授業を行う。そのことによって、IT を学習意欲向上に有効に活用する方途を明らかにする。

研究の内容・方法

- ・研究内容
 前年度の研究内容に加えて、「知的好奇心」「向上心」を喚起・充足させ、「有能感・自己決定感・他者受容感」を高める授業を創造するために、どのようにITを活用すればよいのかを明らかにしていく。
 そのために、子どもたちが事物や人と積極的にかかわり合う活動を組織するための三つのかかわり（「教材とのかかわり」「自分とのかかわり」「他者とのかかわり」）を主軸とした授業づくりを目指すことにした。
 さらに具体化するために以下の「IT活用のための7つの視点」を設定し、授業研究を行う。
 - (1) 興味・関心をかきたてる教材
 - (2) 明確な目標の設定
 - (3) 学習の見通しをもたせる活動
 - (4) 思考を深化させる活動
 - (5) 応答的な環境を準備する
 - (6) 学習者間の積極的な交流を促す
 - (7) 進歩の跡を明確にする活動
- ・研究方法
 知的好奇心・向上心を喚起・充足させていくために、次のような教師の働きかけを授業に取り入れて検証を行っていく。
 各教科において、焦点化する学習意欲を設定する。(例：国語科「表現意欲」、体育科「挑戦意欲」等)検証のために、授業を評価するための「授業評価指標」を取り入れ、教師の授業力の向上を図る。

平成16年度

テーマ
 学びが好きになる授業の創造
 ~ IT の有効活用を図る ~
 研究の見通し
 前年度の研究の成果を元にして、子どもたちの学習意欲を高めるために IT を有効に活用するための方途を明らかにする。それを元にして授業実践を行い、検証を行っていく。

研究の内容・方法

前年度の研究内容に加えて、IT の有効活用を図るための視点を整理し、検証授業を行っていく。
 特に、それぞれの視点が有効に活用されているかどうかを客観的なデータを元にして結論づけていきたい。
 また、研究の成果として開発された教材（デジタルコンテンツ等）は積極的に公開し、多くの学校に成果を共有できるシステムを構築する。

(3) 研究推進体制



